



2018年3月期 決算説明会

2018年5月29日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード: 6298)

<http://www.yac.co.jp>

▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

Contents


- 1. ご挨拶、決算の総括**
..... 代表取締役社長 百瀬 武文
- 2. 2018年3月期連結決算の概要**
..... 取締役 常務執行役員 寺本 和政
- 3. 「究極の理念」の実現に向かって**
..... 代表取締役社長 百瀬 武文
- 4. 2019年3月期の成長事業**
..... 取締役 常務執行役員 副島 幸雄
- 5. 質疑応答**



1. ご挨拶、決算の総括

…………… 代表取締役社長 百瀬 武文

- 売上高・営業利益とも前年度実績と
ほぼ同水準で着地
 - ディ스플레이関連
期初受注予定案件がズレ込んだことにより、
売上が減少し、受注残が増加
 - メカトロニクス関連
エレックスの通期寄与、大倉電気の制御通信
の大口売上等により増収増益
 - クリーニングその他関連
国内需要の減少に伴い微減



2. 2018年3月期連結決算の概要

..... 取締役 常務執行役員 寺本 和政

2-1 事業結果



売上高・営業利益とも前年度実績とほぼ同水準

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
売上高	29,452	28,871	△580	△2.0%
営業利益 (営業利益率)	1,036 (3.5%)	1,074 (3.7%)	38	3.7%
経常利益	1,122	955	△167	△14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	790	403	△386	△48.9%
1株当たり 当期純利益(円)	88.51	45.13	—	—
研究開発費	489	543	53	11.0%
設備投資額	454	1,780	1,325	291.3%
減価償却実施額	518	610	91	17.6%

テクノロジーズ富士工場及びエレックス
新工場の取得に伴う増加

2-2 事業別売上金額



メカトロニクス関連が好調に推移。
ディスプレイ関連は前年比減少。

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
ディスプレイ関連	13,207	11,212 エッチング装置の受注遅れによる売上ズレ	△1,994	△15.1%
メカトロニクス関連	14,555	16,188 ワイエイシイエレックスの通期寄与 制御通信事業の大口売上	1,633	11.2%
クリーニングその他関連	1,689	1,470	△219	△13.0%
合計	29,452	28,871	△580	△2.0%

2-3 事業別営業利益



ディスプレイ関連は、売上の減少に伴い粗利額が減少。
また、一部装置が利益を圧迫。

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
ディスプレイ関連	394	△173	△567	△144.0%
メカトロニクス関連	998	1,201	203	20.3%
クリーニングその他 関連	291	△112	△403	△138.6%
調整額 (共通経費)	△647	158	806	—
合計	1,036	1,074	38	3.7%

2-4 事業別受注・受注残金額



ディスプレイ関連は前年比2.8倍の受注を獲得。

(単位:百万円)

全体で前年比2.3倍となる228億円の受注残を抱えて2019年度スタート。

	区分	2017年3月期	2018年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
ディスプレイ関連	受注	8,115	23,201	15,086	185.9%
	受注残	5,397	17,389	11,922	222.2%
メカトロニクス関連	受注	14,407	17,279	2,872	19.9%
	受注残	4,436	5,502	1,065	24.0%
合計 クリーニングその他 関連は除く	受注	22,522	40,459	17,937	79.6%
	受注残	9,833	22,892	13,058	132.8%

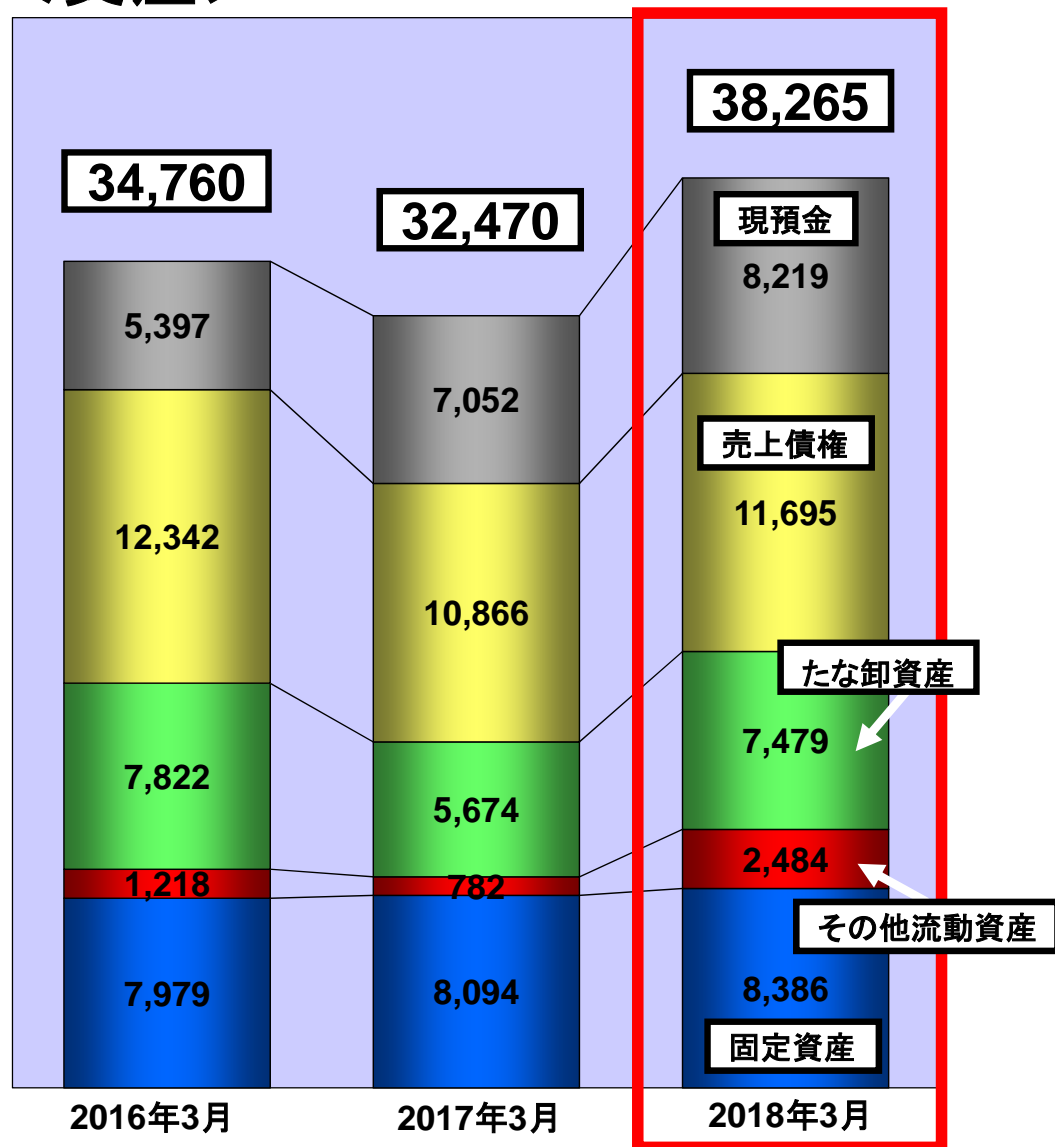
2-5 貸借対照表のレビュー



受注の増加に伴い、たな卸資産が増加

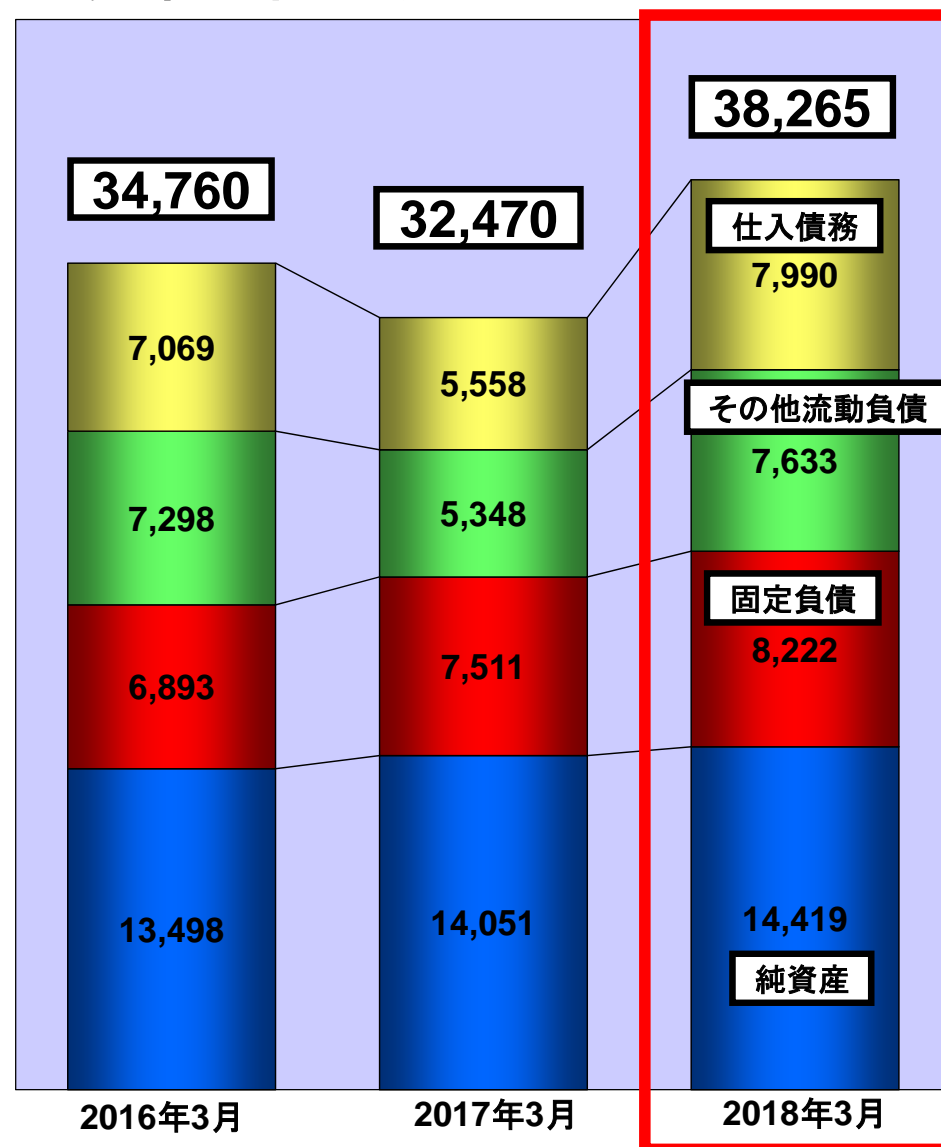
<資産>

(単位:百万円)



<負債・純資産>

(単位:百万円)



2-6 キャッシュフローのレビュー



営業C/Fは2期連続プラスを計上。

「継続企業の前提に関する注記」が解消。

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
営業活動によるC/F	△4,715	4,369	1,598 受注増に伴い棚卸資産が増加
投資活動によるC/F	△3,862	△1,007	△1,808 富士工場の建設等
財務活動によるC/F	5,857	△1,779	1,450 借入の実施
現金及び現金同等物の 期末残高	5,155	6,703	7,926



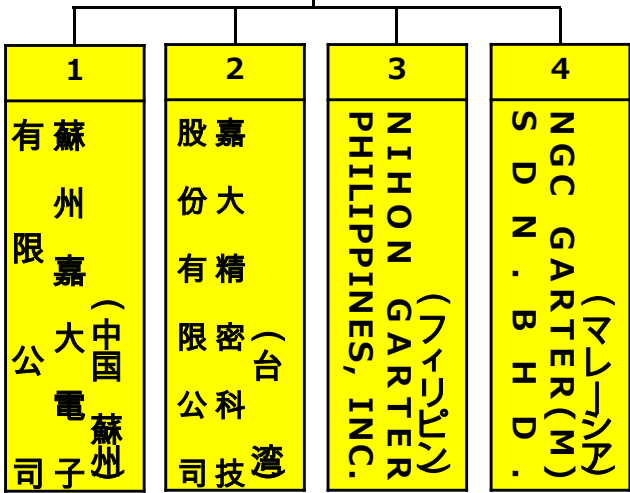
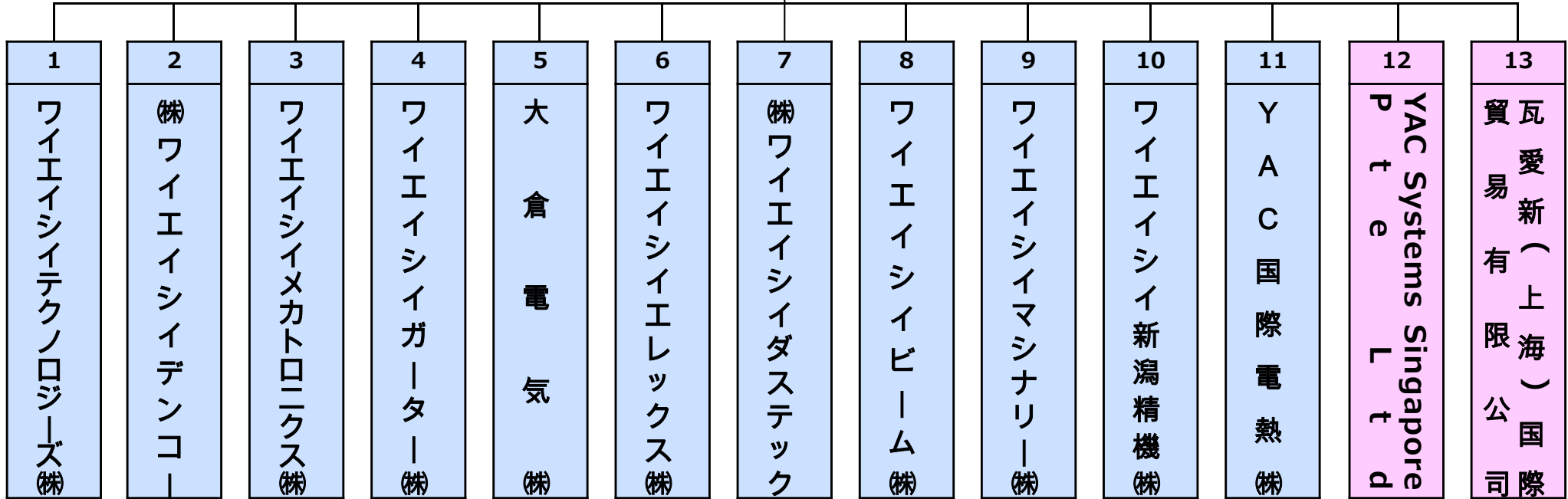
3. 「究極の理念」の実現に向かって

..... 代表取締役社長 百瀬 武文

3-1 ワイエイシイグループの構成



ワイエイシイホールディングス(株)



ワイエイシイホールディングス傘下	全17社
国内グループ会社	11社
海外グループ会社	2社
海外孫会社	4社

3-2 ワイエイシイグループ企業理念



【創業理念】

(1973年)

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

【成長理念】

(1985年)

1. 社員の豊かさを追求する（経済的・精神的）
2. 国・地方自治体に、より多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

【究極の理念】

(2016年)

～より多く社会に貢献するために～

1. 社員の成長
2. 雇用の拡大
3. 雇用条件の向上
4. 納税額の拡大

3-3 「究極の理念」の実現に向かって



「究極の理念」 ～より多く社会に貢献する～ の実現に向かって

「究極の理念」が
目指すこと

- (1) 社員の成長
- (2) 雇用の拡大
- (3) 雇用条件の向上
- (4) 納税額の拡大

より多く実現
するために

- (1) 規模の拡大
- (2) M&Aの積極的な推進
- (3) 高収益体質の確立
- (4) 財務体質の強化
- (5) 全員経営

基本戦略
(3-4)

成功への条件
(3-5)

3-4 「究極の理念」実現への基本戦略



(1) 規模の拡大

1. 既存事業領域の拡大

- ◎主力製品のシェアアップ（差別化、横展開、M&A・アライアンス）
- ◎消耗品・サービス事業の更なる拡大
- ◎取り扱い製品の増加（開発、M&A・アライアンス）
→特にAIとIoT関連に重点を置く

2. 新規事業領域への進出（新ニーズの取り込み）

- ◎成長産業への進出・国家成長戦略の活用
- ◎高付加価値の量産製品の発掘・投入

3. グローバル展開の拡大

(2) M&Aの積極的な推進

(3) 高収益体質の確立（プロジェクトによる推進）

1. 量産新製品の発掘と市場投入（開発製品）

2. 原価低減

- ◎依命システム
- ◎完成機出荷
- ◎早期検収
- ◎ミス防止
- ◎経費節減

3. すべての部門の生産性向上（働き方改革）

- ◎自分の仕事の効率化を図り、処理時間の半減を目指す

(4) 財務体質の強化

(5) 全員経営

- ◎社員全員が経営に参画する

3-5 成功への条件



1. 連携と競争

2. 全員参加の組織的事業推進

- ◎ 目標達成への戦略・戦術はトップが立案し、全社員と議論の上決定し、全社員で実行する
- ◎ 経営手法はP-D-C-Aで推進
- ◎ 事業戦略・戦術をはじめ、すべてにおいてコミュニケーションが取れ、常に職場は明るく、元気よく、活気に満ちている

3. 強烈な意識と活力

- ◎ トップの気力、胆力と事業への情熱、使命感、執念と危機感が絶対条件
- ◎ トップと幹部のチームワークによるリーダーシップ
- ◎ これに呼応するすべての社員の目標達成への高いモチベーション

4. 働き方改革を進め、スピードUPと生産性倍増

- ◎ 生産性倍増へ、全員経営により実現を図る

3-6 「究極の理念」実現へのストーリー



「究極の理念」

～より多く社会に貢献するために～

- 1.社員の成長
- 2.雇用の拡大

- 3.雇用条件の向上
- 4.納税額の拡大

ホールディングス体制、働き方改革、連携と競争

10年後のビジョンの策定

- ・10年後のビジョンに基づいた中期計画の策定
- ・達成への戦略・戦術は全員が意見を出し合い、全員で実行する

創立50周年に向かって新たな挑戦

- ・5年後の目標を設定し、全員で挑戦する

2017～2019年度

各社の**予算達成**と、3つの**企業文化**の定着化を図る

- ①グループ各社の連携と競争
- ②高収益体質の構築
- ③全員経営の実践

基本戦略

(1) 規模の拡大

- 1.既存事業の拡大
AI、IoT関連に重点
- 2.新規事業への進出
- 3.グローバル展開
- 4.M&A、アライアンス

(2) 高収益体質の確立

- 1.高付加価値製品の投入
- 2.生産コストの低減
- 3.生産性向上

(3) 財務体質の強化

(4) 全員経営

前年比

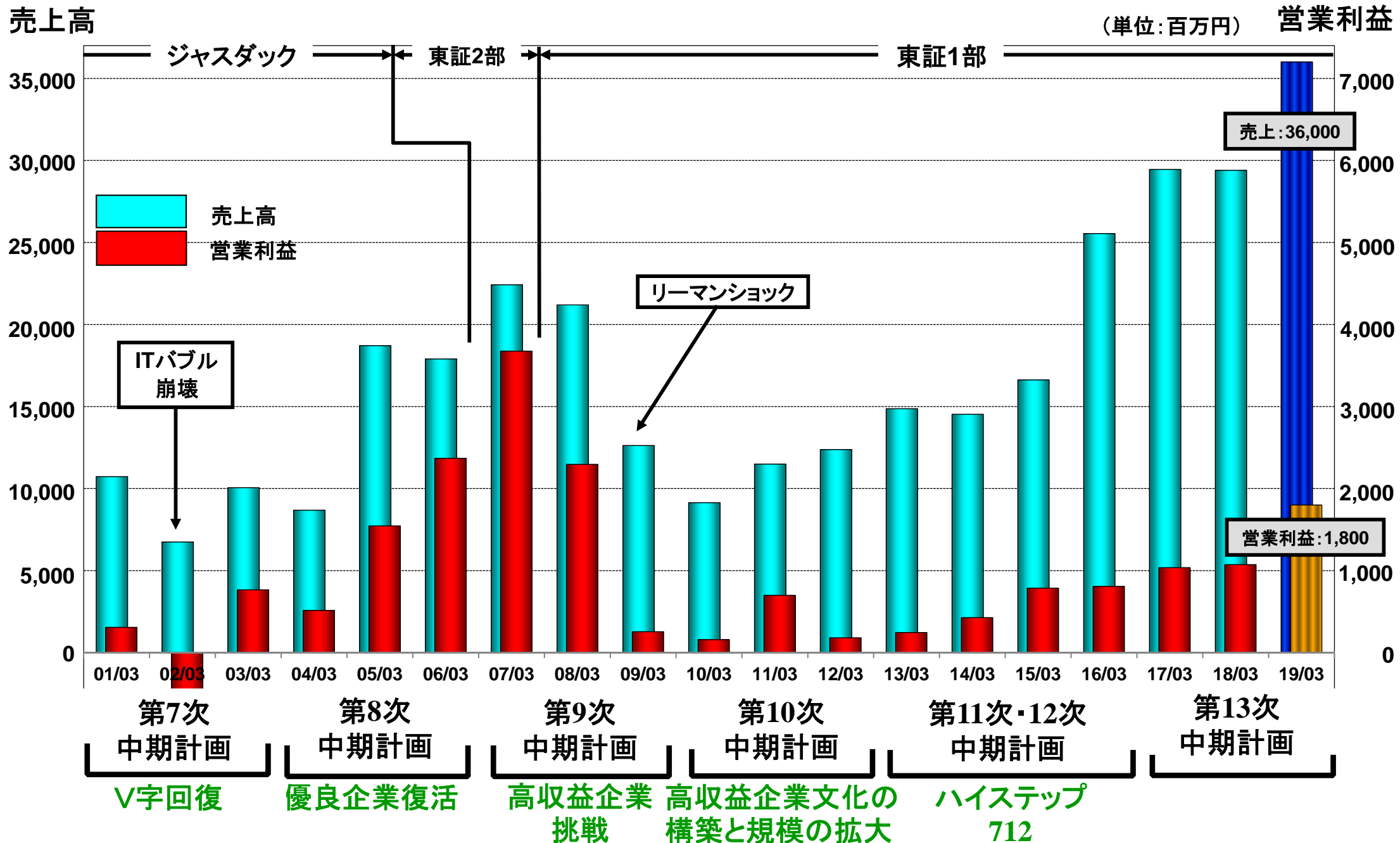
■ 売上 360億円 (+72億円)

■ 営業利益 18億円 (+7億円)

期首受注残 228億円 (+130億円)

1. 期首受注残228億円(前期比2.3倍)を抱えて、2019年3月期は順調にスタート
2. ディ스플레이、半導体業界の需要は引き続き旺盛

3-8 過去の業績と2018年3月期見込





4. 2019年3月期の成長事業

…… 取締役 常務執行役員 副島 幸雄

■ディスプレイ事業

- ▲有機ELの一服感があり遅延はあるが、投資無くなっていない。スマホ向の中小型サイズとTVの大型サイズ遅延を好機と捉え、プロセス装置開発を進めシェア奪回を計る。
- ▲フレキシブルOLEDでは、アニールとドライエッチャーに事業機会を得ている。

■半導体事業

- ▲テーピングマシンは、ディスクリート向けの取り込みにも注力。
- ▲パワー半導体Si-IGBTやSiC-SBD、SiC-MESFETの取り込み。レーザーアニール、外観検査機、ハンドラの機会大。
- ▲WLPのPLP用のテーピングマシン、アニールの開発。

■計測制御事業

- ▲ 電力のベストミックスにおいて、再生エネルギー増加においては、電力の需給バランス制御機器や工業計器の需要増。
- ▲ 送電のグリッド化で基幹送電の増加。制御機器需要増。

■医療ヘルス機器事業

- ▲ 透析装置の世界戦略機の評価機が完成。2019年以降、2018年比2倍の生産体制の予定。
- ▲ 高齢者の見守りシステムの開発。

4-3 2019年3月期事業計画



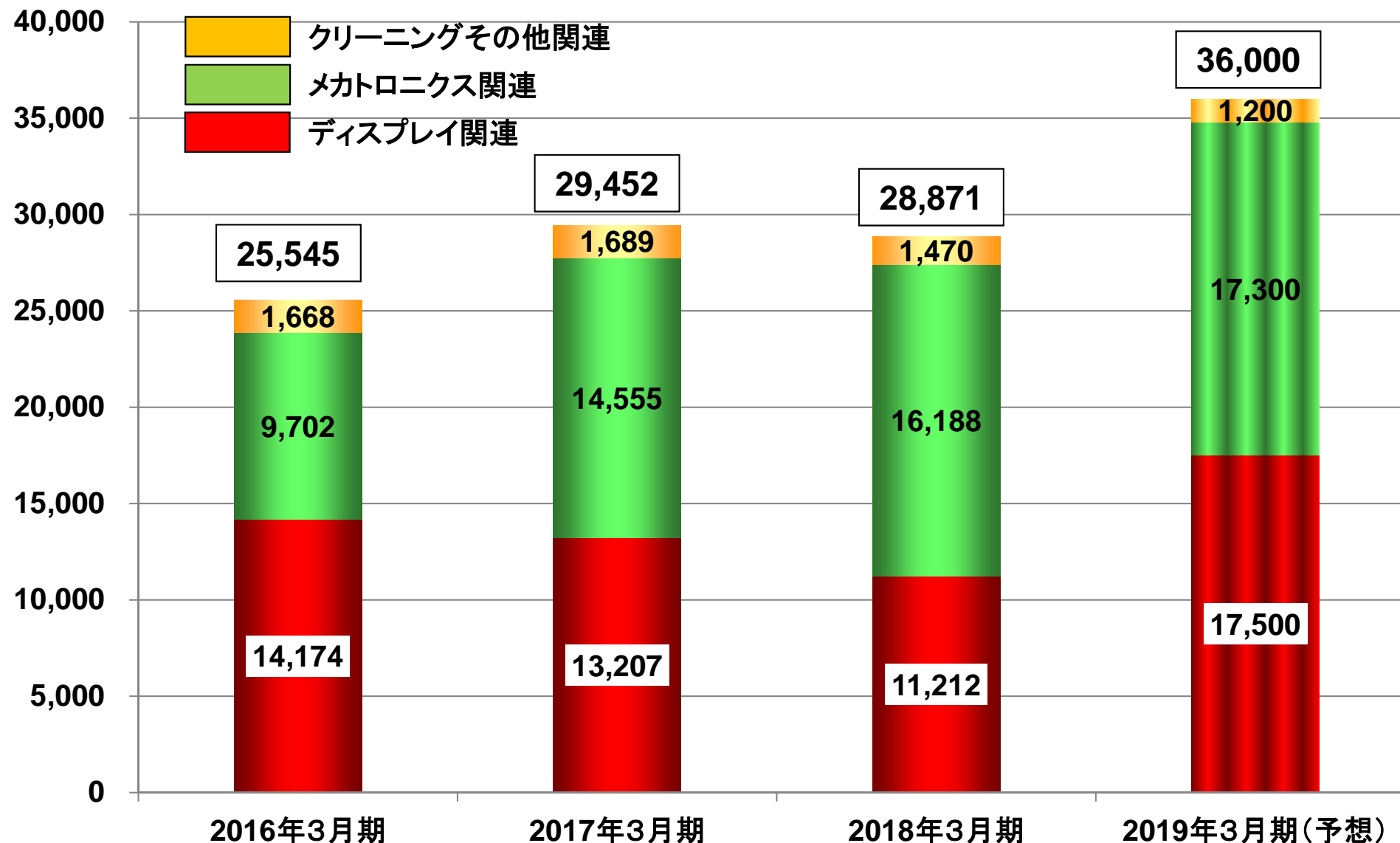
(単位:百万円)

	2016年 3月期 (実績)	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 (見込)	前年比 増減額 (見込)	前年比 増減率 (見込)
売上高	25,545	29,452	28,871	36,000	7,128	24.7%
営業利益	807	1,036	1,074	1,800	725	67.5%
経常利益	546	1,122	955	1,600	644	67.5%
当期純利益	28	790	403	800	396	98.1%
1株当たり 当期純利益(円)	3.14	88.51	45.13	89.40	—	—

4-4 事業別売上計画



(単位:百万円)

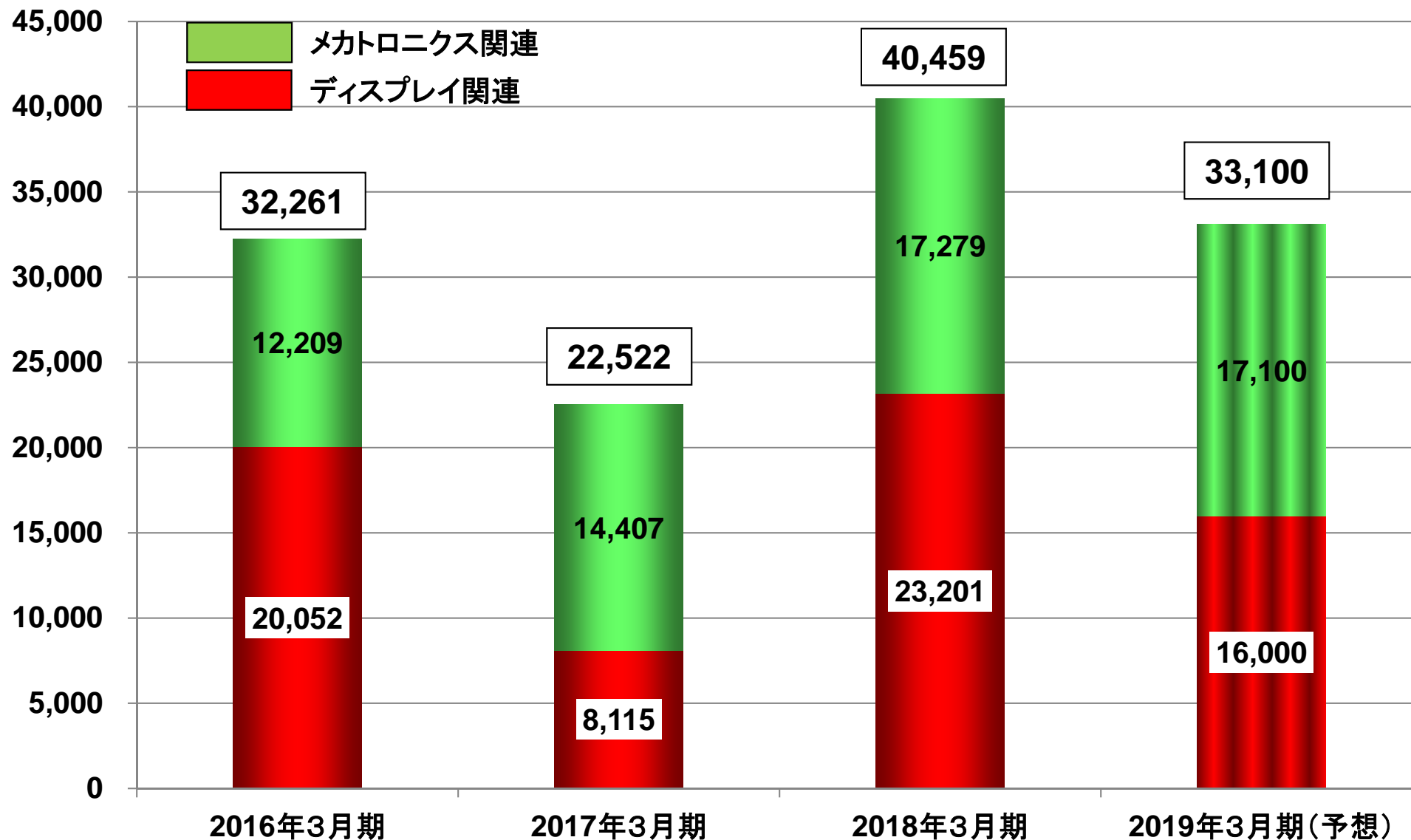


4-5 事業別受注計画



(単位:百万円)

※クリーニングその他関連は除く





さあ今日も、

ときめきと感動の日々であれ！

しなやか先端技術企業集団
ワイエイシーグループ